

NO.4 ほめ育通信

躰について

躰とは、子どもに善悪や集団社会でのルールやマナーを教え感情を自律（コントロール）できるようにすることです。

子どもは2歳から自分の感情を自律することを学び、毎日の生活の中で起こる“心の揺れ動き”を積み重ね経験することで年齢に応じた成長をします。

躰の基本は**我慢**することを覚えさせることです。子どもは我慢を覚えることで大人になります。“自由にのびのびと”の方が子育てに良いように聞こえますが、“我慢”する**経験**が無いと**欲望を自律**できない大人に育ってしまいます。

躰はその人の身を美しくする物です。集団生活でのルールやマナーを教える上では時に厳しく接する必要があります。

大切なのは**怒る**のではなく、しっかりと**叱**ること。怒ると子どもは怒鳴り手の**言葉**ではなく**感情**を気にするようになります。そして、繰り返されると、精神的に耳をふさぐ状態になり、**なぜ相手が怒っているのか**ではなく、**どうしたら怒鳴られなくなるか**を考えるようになり自己防衛反応がでるようになります。返事やうなずく等の応答をしないことや逆にから返事をするのもその一種となります。

まだ子どもだからと思わず、なぜだめなのか、なぜそうしないといけないのか。感情的にならず、しっかりと意味や理由を伝えるようにしてあげると良いと思います。

コラム

「経営の神様」と呼ばれた松下幸之助さんも人を成長させるには叱る事と褒めることの両方が必要だ。2叱ったら8褒めるくらいの気持ちが大切だと著書で述べていました。私が感じたことは、**叱った後ってちゃんとほめられてるかな？**です。叱った後ほめるって何だか変に感じるかもしれませんが、例えば、**公共の場で子どもが騒ぐ⇒叱る⇒静かにできた。**これで終わってませんか？静かにできたら、一言、**ちゃんと静かにできて偉いね！**とほめてあげる。この一言が大切なのではないのでしょうか。こどもは、良い行いと悪い行いがわかりません。あの時、前も、と過去をさかのぼって注意されても響きにくいのです。そもそも子どもはできたできないを繰り返して成長するものです。何がダメで何が良いのか、その場で指摘しその場でほめる方が子どもには何が良い行いで何が悪い行いなのか伝わるのではないのでしょうか。

9月の「ありがとう」の木



スマホやタブレットはいつから？

2学期が始まりありがとうの木を新しくしました。あっという間に花が付き、にぎやかになってきました。1学期のメッセージは、今年度末にまとめて保護者にお渡しし、1年間の成長を感じて頂ければと思います。引き続き、たくさんのメッセージ楽しみにお待ちしております。ご協力お願いします

